

朝倉文夫 あさくら 彫刻家。明治十六年二月一日大分縣生れ。昭和二十九年四月十八日歿（六三一九歳）。舊姓渡邊。號紅隼士、紅波等。明治四十年東京美術學校彫刻科選科卒。大正五年上文展審査員、十年母校教授、十二年帝國美術院會員、昭和十一年朝倉彫刻塾主宰、二十年帝室技藝員、二十二年文化勳章受章。日本書家、舞臺美術家朝倉操の長女、彫刻家朝倉響子は次女。

著書『文藝講座・第一卷』（合著・日本放送協會関東支部編、昭和九年四月十二日日本ラヂオ協會文藝館「ラヂオ講演」）、『彫刻餘瀝』（昭和九年）二月十八日（朝倉書房）、『東洋廟の作り方』（昭和十五年一月十五日）（三省堂）、『衣・食・住』（昭和十七年一月二十一日）（日本電建株式會社出版部）、『美の成果』（昭和十七年十一月十日）（國文社）、『航空瑣話』（昭和十八年五月五日）（東和出版社）、『わが青春の日』（合著・新居格編、昭和二十二年十月十五日）（現代社）等。

文獻、逸事二著『朝倉文夫の青春』（昭和五十一年八月一日）（國文社）等。

